

VIII グローバル企画推進室事業：
アジア・ブリッジ・プログラム(ABP)
(年次報告(平成26年度後期・27年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土生, 英里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009666

Ⅷ グローバル企画推進室事業

— アジア・ブリッジ・プログラム（ABP） —

ABP総括コーディネーター 土生 英里

1. 概要

平成25年末に採択された文部科学省国立大学改革強化推進補助金事業、「全学的な教育改革・組織改革によるグローバル人材育成機能の強化—ターゲット・アジア人材育成拠点の構築—」において、静岡大学は平成26年度より、全学的な実施体制の構築を行うとともに、事業の確実な実施のために様々な施策を整備してきました。

計画調書に基づく事業の概要は、以下の通りです。

- 1) グローバルに活躍し、経済社会の変革を担うイノベーション人材の育成機能の強化
- 2) 地元企業などと連携するアジア人材育成拠点と全学教育マネジメント体制の構築
- 3) 教育研究組織の柔軟な編成と運営を可能にする教育組織と教員所属組織の分離
- 4) 人材育成に関わる強みと特色を生かした人材資源の再配分による全学的な教育研究組織の再編成

また、事業を実施・運営する体制として、国際交流センターのサポートのもと、次のような施策を実施しました。

- 1) グローバル企画推進機構をグローバル企画推進室に改組、新規に教職員を採用し、全学のグローバル化サポート体制を整備
- 2) グローバル企画推進室の事業を確実に実施するため、関係する学内規則の見直しと改正、学内組織（全学入試センター、情報基盤センター、保健管理センター、法規係、各学部・研究科、その他関連組織）との有機的な連携体制を構築

グローバル企画推進機構は、予定されていた全ての教職員の採用を完了し、総括コーディネーターの着任と同時にグローバル企画推進室に改組され、平成27年4月1日より新体制のもと、運営が開始された。また、同年9月までに、それまでの立ち上げを担ってきた国際交流センターより、本来の役割の引継ぎを終了し、全学規模のグローバル化に向けた体制整備に着手しました。主な活動内容は次の通りです。

- ① アジア・ブリッジ・プログラムの運営
- ② グローバル企画推進室の体制整備
- ③ 全学的な連携体制の構築

2. 活動内容

① アジア・ブリッジ・プログラム（ABP）の運営

- I. 入試体制（学士過程）の見直しと文科省規則・学内規則との整合化および全学体制の構築
- II. 学士過程留学生入試の体制整備と全学入試センターとの連携体制構築
- III. 学士過程留学生向けに提供されるABP科目の見直しおよび関係6学部カリキュラムとの整合性調査と調整
- IV. 学士課程日本人学生向けABP副専攻プログラムのカリキュラム・履修要件・修了要件の策定と受入態勢の整備
- V. 総合科学技術研究科とグローバル企画推進室との連携体制の構築と、同研究科修士課程におけるABP留学生入試体制の整備
- VI. 学士留学生・修士留学生向けWeb出願システムの構築と運営
- VII. 学士留学生・修士留学生向け広報・リクルーティング体制（留学生フェア、さくらサイエンス、現地高校訪問、ホームページの整備、日本語教育機関における説明会、その他）の構築と運営
- VIII. グローバル企画推進室と情報基盤センターとの連携体制確立と、広報戦略の連動性確保
- IX. 学士留学生を対象とするEJU（日本留学試験）、JLPT（日本語能力試験）運営機関（日本学生支援機構－JASSO、国際交流基金）との連携及びEJU普及のための協働体制の構築
- X. 国内日本語教育機関、留学生受入高校へのABPプログラムの周知及び説明会の開催
- XI. 平成27年度第1期生の受入れと平成28年度海外入試（タイ・ベトナム、インドネシア、インド）の実施
- XII. ABPプログラム入学者に対するサポート体制の整備、インターンシップ受け入れのための県内企業の開拓、留学生来日に関わる地域連携体制の整備
- XIII. 静岡県内関連企業、経済団体、地方公共団体、学内教職員等を構成員とするアジア・ブリッジ・プログラム連絡会の立ち上げ

② グローバル企画推進室の機能確定と組織体制の整備

- I. グローバル企画推進室所掌業務と国際交流センター業務との切り分け、役割分担の明確化
- II. グローバル企画推進室における担当業務の整理と事務・教員組織の有機的な協働体制の構築
- III. グローバル企画推進室の業務に関する関係部局（6学部・総合科学技術研究科4専攻）との連携体制の確立

3. 平成27年度ABP第1期生入試

平成27年度第1回ABP海外入試では、学士課程で5学部11人、修士課程で4専攻48人の

計59人が合格し、同年10月より各学部・専攻において学んでいます。

ABP生として入学した学士課程留学生は、日本語能力を強化するための初学期教育を終了し、4月から日本人学生と肩を並べて各学部の正規課程の教育を受けることになります。また、単位化された企業インターンシップを経て、最終的には大学が提供する就職支援を受け、静岡県内の企業への就職の道が開かれています。修士課程留学生は、全科目英語で提供される所定の単位を取得し、それぞれの専門分野を極めるため、研鑽を積んでいます。

以 上